

妙高高原教会再建 記念講演 & 写真展

妙高から 世界へ 人と大地の絆の再生

世界で止まない戦争や対立。各地に被害をもたらす異常気象。広がる経済や情報の格差――。

私たちが“持続可能な未来のあり方”について考え直す時期がきています。子ども時代、妙高高原の豊かな自然の中で過ごした講演者の小倉さんは、これまで北米、インド・ヒマラヤ、ジンバブエ等で研究活動を行い『雑穀』を中心とした伝統的な農業や生活の知恵に注目。それらがもたらす、経済効率だけではない新たな価値についてお話しいただきます。

11月2日(日)

参加
無料

14:00～16:00

日本基督教団

妙高高原教会にて

妙高高原ビジターセンターより徒歩2分



講演／撮影 小倉沙央里

祖父で東京大学の名誉教授だった故・隅谷三喜男氏の池の平クリスチャン村の山荘を幼少時から訪問。今でも毎年、山荘を訪れている。フォトグラファーとしても活躍。ヒマラヤ(インド)やジンバブエ(アフリカ)で生活しながら撮った現地の人々の暮らしや風景、植物などの写真が2017年、ニコンサロン写真コンクールにおいて三木淳賞奨励賞を受賞。自然と共存した伝統的な暮らしや農業の知恵についての研究で、2024年カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学で博士号取得。現在は米国マサチューセッツ大学研究員。

●教会内で、「妙高から世界へ～人と大地の絆の再生」写真展を開催中です。

●お車の方は妙高高原ビジターセンター駐車場より徒歩でお越しください。



妙高高原教会と クリスチャン村の描く未来

●池の平クリスチャン村の歴史

今から60年ほど前の1963年、全国の牧師やクリスチャンが大自然の中で静養や交流する場として池の平クリスチャン村が誕生。その2年後に教会が建てられました。村と教会は、妙高戸隠連山国立公園内に位置し、多様な動植物や鳥類などが生息し、四季折々の姿を見せる自然豊かな土地です。村では、道はできるだけ舗装せず、外部から植物を持ち込まないなど、できる限りあるがままの自然を守るよう努めてきました。

●「開かれた教会」をめざして

大きな転機となったのは、2022年2月24日、未曾有の大雪による教会の倒壊です。事態を受け、教会に対し、村民はもちろん、関東を中心に全国50を越える教会やその関係者、地域の皆さんから献金などのご支援をいただき、3年半が経過した今年、ようやく再建することができました。再建へ向けたプロセスの中で、教会や村を、村民だけでなく、全国のクリスチャンやクリスチャン以外の地域の皆さんに“開かれた教会”にしていこうと話合いがなされてきました。「癒される場になること、平和を発信し育む場になること、美しい自然環境を守り、次世代に繋がる場としての機能を持つこと」一。こうしたヴィジョンを持ち、共感していただける多くの方々と共に「新しい教会」のかたちを作り上げていければと願っています。



旧教会堂



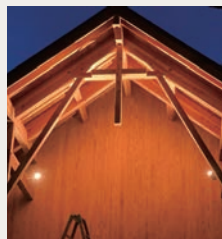
2022年2月豪雪で倒壊



建設地での話し合い



今年5月の定礎式



ライトアップ・完成前夜



上棟の日



基礎下炭撒き
ワークショップ

教会×認知症カフェ 教会×アート



村にはケアマネや薬剤師などの資格を持っている会員も。定期的に認知症カフェやこども食堂を開催。気軽に立ち寄ることができる居場所としてまたアート作品の展示など文化活動の拠点としてお役に立ちたいと考えています。

森の民泊 始めます

高齢化や後継者不足で“取り壊し”や“休眠状態”の山荘を民泊として活用。一般観光客はもちろん地域の皆さんのご家族やクリスチャン、障害者、学生の皆さんなどに割安で別荘を楽しんでいただきます。



持続可能なリゾート開発

妙高では今、外国資本による大規模なリゾート開発計画が進められています。経済活性化につながる期待がある一方、豊かな自然や暮らしがちゃんと守られるのかという不安も。地域の利益になり将来につながる取り組みになるよう声をあげていきます。

妙高の未来を一緒に考えたい

再建された教会とクリスチャン村は“開かれた教会”として生まれ変わります。これからは、妙高の未来を一緒に考える地域の一員として仲間入りします。これからの妙高高原教会と池の平クリスチャン村の活動にご支援とご協力をお願い致します!!

お問い合わせ ●池の平クリスチャン村 (070-5559-9036 / 担当:佐藤)
●民泊・認知症カフェ・妙高の未来を・持続可能なリゾート
(090-1427-8644 / 担当:望月 mochizuki.ken53@gmail.com)



日本基督教団 妙高高原教会
新潟県妙高市関川2443-2 tel.0255-77-4759

👉 池の平クリスチャン村ホームページ

